

日本薬史学会 2022 年会(宮城)

プログラム集



会期:2022年11月5日(土)

会場:東北大学大学院薬学研究科・薬学部棟

主催:日本薬史学会

共催:東北大学大学院薬学研究科

後援:宮城県、(公社)仙台市薬剤師会、日本薬用植物友の会

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 日本薬史学会 2022 年会(宮城)の開催にあたって | 1 |
| 会場までのアクセス | 3 |
| 会場案内 | 5 |
| 参加者へのご案内 | 7 |
| プログラム | 9 |
| 発表に関するご案内 | 13 |

日本薬史学会 2022 年会(宮城)の開催にあたって

日本薬史学会 2022 年会(宮城)
年会長 江戸 清 人
(エコー電力ビル薬局[仙台市])

日本薬史学会 2022 年会が東北の地、仙台で開催されることは初めてのことだと思います。日本薬史学会はその設立が 1954 年(昭和 29 年)、2 年後の令和 6 年には設立 70 周年を迎えようとしている伝統・文化のある学会と認識しております。その年会開催の代表を務めること大変光栄に存じます。

会場の東北大学は我が国第 3 番目に創設された帝国大学です。それ以前には旧制第二高等学校、また多くの高等教育機関が仙台あったので、学都仙台とも呼ばれております。本年の年会会場の薬学研究科・薬学部棟は昭和 47 年に医学部薬学科から独立、薬学部に昇格、50 年間この地にあります。

さて、仙台市は日本薬史学会の設立や我が国の薬学の発展にも多大な貢献をされた清水(旧姓長尾)藤太郎先生の生誕の地、先生の生涯の最初の 20 年を刻んだ故郷で、本学会にはこの様な縁もございます。

一方、宮城県は今年県政 150 年の節目を迎えました。東北の地方紙の一つ、『河北新報』の発刊の謂れは、『白河以北一山百文という東北の侮蔑に奮起し、『河北』の題号を冠した新聞を創刊しました。明治 30 年のことです。すなわちこの地に産業を興すべく、また文化の発展を促すため河北新報を創刊する』と心意気を刻んでおります。

今年は仙台にとって、宮城県、さらには、東北にとってうれしいことがございます。ご存知のようにこの夏 104 年ぶりに、全国高等学校野球選手権大会において、宮城県代表の仙台育英学園がついに優勝を飾ったことです。そのため深紅の優勝旗が初めて“白河の関”を超えて東北の地に届いたと報じられました。

その昔、能因法師の和歌『都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞ吹く白河の関』や、松尾芭蕉の

日記に『心もとなき日数重るままに、白河の関にかかりて、旅心定めぬ。』と記載あります。白河の関は福島県の白河市にあった奥州三関の一つで、江戸から東北に向かうおりに越えなければならない第一の関所であったわけです。今年、日本薬史学会年会も初めて白河の関を越えられて本当に良かったと感無量です。

さて、今回は特別講演として、ベンチャービジネス界の旗手の一人と認識しております、アンジェス株式会社代表取締役の山田 英(エイ)先生に、薬学に大いに関係あるが日本でなかなか育っていないとの感じを持っております医薬品領域でのベンチャービジネスについてご講演をいただきます。我が国の医薬品開発が岐路に経って大分経ちます。この領域をサマリイしていただけるものと確信しております。

もう一つの特別講演・一般公開講座は歴史学についてお話いただきたいと考えました。演者の田中英道先生は美術・芸術の本場、フランス、イタリアなどで、美術史の研究を長い間重ねられました。日本に帰られ、しばらくして東北大学に赴任、そこからヨーロッパで培った審美眼を武器に日本美術、特に神社仏閣などを訪れ、仏像、遺跡などを対象に研究されてきた先生です。日本の神話、縄文時代をはじめ、近現代の歴史まで言及いただけるものと期待しております。先生は日本の古代も含め歴史学に evidenced-based-history(EVH)を導入し、また、ヨーロッパの美術研究を日本の美術研究へと転進させています。さらに、美術史から我が国の歴史教育までとその業績は多彩です。その一端をご講演いただけると期待いたします。

一般演題は口頭発表14題、ポスターセッション(示説)発表4題、計18題の発表が予定されています。久しぶりの対面での年会、大いに議論が沸騰することでしょう。

最後に本年会の開催が本会員、そして本年会に参集された多くの皆さんにとって有益な学会になればと心より祈っております。また、本年会の開催にあたり、各方面からのご指導、ご支援、ご援助をたまわりましたことをここに厚く御礼申し上げます。

会場までのアクセス



JR 仙台駅からのアクセス

JR 仙台駅西口から地下鉄東西線「仙台駅」へ
地下鉄東西線「八木山動物公園行」に乗り、「青葉駅」まで約 9 分
北1出口から左方向(青葉山北キャンパス)へ徒歩で約 10 分

地下鉄東西線時刻表

仙台市交通局ホームページをご覧ください。

仙台駅発(八木山動物公園行)

https://www.navi.kotsu.city.sendai.jp/dia/bustime/subway/subway_result.cgi?SubwayCode=9285#3

青葉山駅発(荒井行)

https://www.navi.kotsu.city.sendai.jp/dia/bustime/subway/subway_result.cgi?SubwayCode=9728#2



仙台駅



青葉山駅

ループル仙台

仙台市中心部の観光スポットを結ぶ一方向循環バス。
「理学部自然史標本館前」が最寄りのバス停です。

<https://loople-sendai.jp/about/>

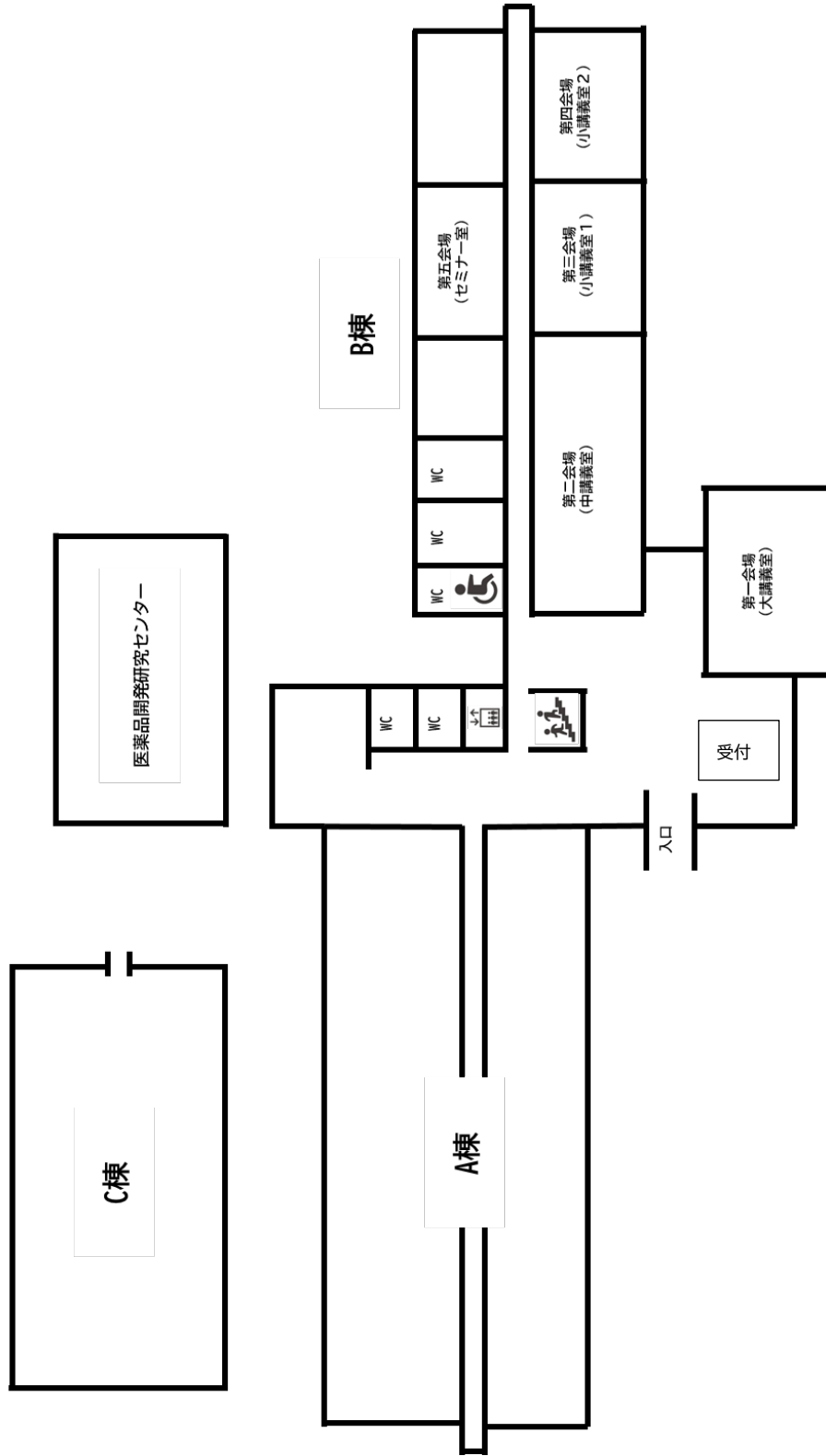
なお、バスの位置情報は「どこバス仙台」から確認できます。

<https://www.dokobasu.kotsu.city.sendai.jp/wgsys/wgp/search.htm>



会場案内

※A棟、C棟、及び2階以上は立ち入り禁止



受付(大講義室前ホール) 9:30～

・事前登録者受付、当日登録者受付

第一会場(大講義室・収容人数 156 名)

・特別講演、一般講演(口頭) 9:30～18:45

第二会場(中講義室・収容人数 104 名)

・休憩談話室 9:00～18:00

第三会場(第一小講義室・収容人数 48 名)

・理事・評議員会 12:35～13:35

第四会場(第二小講義室・収容人数 32 名)

・予備室

第五会場(セミナー室・若干名)

・年会本部

※ポスター会場は別途案内します。

・展示時間は、10:00-17:00 の間をお願いします。

参加者へのご案内

- ・会員 事前登録 4,000 円・当日登録 5,000 円
 - ・非会員 事前登録 5,000 円・当日登録 6,000 円
 - ・学生会員 事前登録 無料・当日登録 1,000 円
 - ・学生非会員 事前登録 1,000 円・当日登録 1,000 円
- ※当日登録の場合にはおつりの出ないようにご配慮ください。

受付は、9:30 から第一会場(大講義室)前ホールで行います。

キャンパス内での注意事項

- ・キャンパス内は全面禁煙となっております。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ・構内では、東北大学の行動指針レベル※を遵守し、正しいマスクの着用(義務)、徹底した換気、密の回避、手洗いなどの基本的な感染対策を行い、感染から自らの身を守るとともに、他人に感染させない自覚と責任ある行動をお願いします。

※<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/covid19BCP/index.html>

- ・来場前に、参加者は検温を行い、平熱よりも1度以上の熱のある場合、味覚・嗅覚障害・息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ、咳、咽頭痛等の体調不良がある場合には年会への参加を控えてください。会場で体調不良を生じた際にはスタッフに申し出てください。
- ・演者との距離を確保するため、教壇側2列目までの席は利用しないでください。なるべく他者と間隔を空けてお座りください。
- ・昼食の際には、指定された会場において、他者との間隔をとり、黙食(会話をせずに食事)としてください。
- ・質問時には指定箇所にある「マイク」を使用してください。なお、マイクに触れる前後で“手指消毒”をお願いします。
- ・会場の出入り口を開放し、参加者がドアノブに触れる機会をできるだけなくすようにしています。
- ・会場には消毒用エタノールがありますので、適宜、ご利用ください。
- ・受付時に混雑することが予想されます。間隔を空けてお待ちくださるようご協力をお願いします。お手持ちのスマートフォン等に「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のインストール」をお願いいたします。
- ・トイレの利用前後に手指消毒をお願いします。
- ・ゴミは指定された箇所へ捨ててください。あるいはお持ち帰りのご協力をお願いします。

事前参加登録された方

- ・事前にご案内しました参加票(QRコード)をご持参の上、受付にお越しください。

参加証明書

・参加証明書を必要な方は、受付にある「参加証明書発行願」に必要事項を記入の上、お帰りの際に必ず受付に提出してください。当日以外での対応、紛失のお問い合わせには応じられませんのであらかじめご了承ください。なお、参加証明書は年会後日に送付いたします。

情報交換会

・新型コロナウイルス感染状況を鑑み、本年会での情報交換会は中止としました。参加費を振り込まれた方には返金いたしますので、お手数をおかけいたしますが参加票(QRコード)をお持ちになり受付までお申し出ください。

クローク

・クロークは設置しません。ご宿泊施設等のクロークなどご利用いただけると幸いです。

食事

・青葉山北キャンパス厚生会館の改修に伴い、理薬食堂および理薬購買店は一時閉店中です。周辺には、セブンイレブン東北大学理学部(青葉山駅北出口から徒歩約2分)、ローソンS東北大学青葉山(青葉山駅南出口から徒歩約2分)があります。

・第一会場脇に飲み物の自動販売機があります。

・事前登録時にお弁当を申込された方には、昼休み休憩時に、第2会場(中講義室)でお弁当をお渡しいたします。参加票(QRコード)をご持参になり、お申し出ください。

駐車場

・年会専用の駐車場はございません。仙台市営地下鉄東西線など公共交通機関をご利用ください。

プログラム

受付の開始 (9:30～)

開会の挨拶 (10:00～10:05)

日本薬史学会 2022 年会長 江戸清人

会長挨拶 (10:05～10:10)

日本薬史学会会長 森本和滋

一般口頭発表 1 薬学関連組織の歴史 (10:10～11:10)

座長 村田正弘 (NPO セルフメディケーション推進協議会)

安藤崇仁 (帝京大学薬学部)

○-1 日本薬用植物友の会の東日本大震災から現在までの活動報告

○我妻邦雄^{1,2}, 今野勇^{1,2}, 遠藤則子¹, 草野源次郎^{1,2}

(¹日本薬用植物友の会、²NPO 法人薬用植物普及協会みやぎ (平成 30 年 3 月解散))

○-2 福島臨床薬学研究会 27 年間の歩みとその評価

高橋智子^{1,2}

(¹福島臨床薬学研究会事務局, ²公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部)

○-3 国際薬史学会の活動と日本薬史学会の連携状況

但野恭一^{1,2}

(¹NuLink Co.Ltd., Japan, ²日本薬史学会国際委員会)

○-4 日仏薬学会の 50 年の歩み

○赤木佳寿子¹, 市川厚²

(¹一橋大学大学院社会学研究科, ²京都大学名誉教授)

特別講演 I (11:10～12:10)

座長 船山信次 (副会長, 日本薬科大学客員教授)

我が国のベンチャービジネス、医薬品を例に、現在と将来

山田 英

(アンジェス株式会社代表取締役社長)

昼休み休憩（食事）（12:10～13:45）

理事会・評議員会（12:35～13:35）

特別講演Ⅱ・市民公開講座（13:45～14:45）

座長 江戸清人（年会長，エコー電力ビル薬局[仙台市]顧問）

日本史が変わってきている－古代史のエビデンスが蓄積

田中英道^{1,2}

（¹東北大学名誉教授，²日本国史学会代表理事）

一般口頭発表2 薬学の発展に関わった人たち（14:45～15:45）

座長 赤木佳寿子（一橋大学大学院社会学研究科）

日向須美子（北里大学東洋医学総合研究所）

〇－5 内山充先生の遺された思いと言葉を探る at 仙台：使命感と責任感の醸成の視点から

森本和滋

（国立医薬品食品衛生研究所（NIHS）生物薬品部）

〇－6 関東大震災（大正12）において災害医療支援活動を行った東北の薬剤師
五位野政彦

（東京海道病院薬剤科）

〇－7 売薬製造販売業者ホロウェイ夫妻の事蹟（上）～英国女子高等教育発展への貢献～
柳澤波香^{1,2}

（¹津田塾大学，²青山学院大学）

〇－8 日本初の無鉛白粉作製の背景とその無害証明に関わった薬学者たち
高際麻奈未^{1,2}

（¹東京薬科大学史料館，²北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部）

一般ポスター発表（15:45～16:45）

P-1 セルフメディケーション推進活動の経緯と展望

○村田正弘，江戸清人，大嶋耐之，安田俊道，高橋千佳子
（NPO セルフメディケーション推進協議会）

P-2 清水藤太郎先生の仙台における足跡について

○江戸清人¹，船山信次²，清水眞知³，安藤崇仁⁴
（¹エコー電力ビル薬局 [仙台市]，²日本薬科大学薬学部，³平安堂薬局 [横浜市]，⁴帝京大学薬学部）

P-3 天平九年（737年）の藤原四兄弟（藤原不比等の息子達）の死因は痘瘡（天然痘）ではなく暗殺か

船山信次
（日本薬科大学薬学部）

P-4 薬学教育の変遷—薬剤師国家試験と職能評価

○竹内幸一¹，伊藤淳雄²，村田正弘³
（¹明治薬科大学，²新北陵病院，³NPO セルフメディケーション推進協議会）

一般口頭発表3 薬学関連の歴史（16:45～17:30）

座長 五位野政彦（東京海道病院）
桐原正之（静岡理工大理工）

O-9 共有価値創造の観点からみた1870年代～1910年代の大阪薬業界

安土昌一郎
（立教大学）

O-10 唐招提寺の薬園とその再興

西原正和
（奈良県薬事研究センター）

O-11 風邪の歴史と予防

○青沼悦子^{1,2}，陳海麗¹
（¹東北大学大学院医学研究科 運動学分野，²おさんぼ調剤薬局[仙台市]）

一般口頭発表4 医薬品開発研究の歴史 (17:30~18:15)

座長 但野恭一 (NuLink Co.Ltd., Japan, 日本薬史学会国際委員会)
村井ユリ子 (東北医科薬科大学薬学部)

O-12 長井長義先生による麻黄のエフェドリン発見から EFE の開発研究まで

○日向須美子¹, 中森俊輔^{1,2}, 黄雪丹^{1,2}, 関根麻理子¹, 日向昌司³,
内山奈穂子³, 天倉吉章⁴, 小林義典^{1,2}, 合田幸広³, 花輪壽彦¹, 小田口浩¹
(¹北里大学東洋医学総合研究所, ²北里大学薬学部, ³国立医薬品食品衛生研究所,
⁴松山大学薬学部)

O-13 創薬の基礎としての有機合成化学 (2): フロン規制が有機フッ素化合物合成に
与えた影響

桐原正之
(静岡理工大理工)

O-14 21世紀における日本の医薬品開発の変遷 (~2020年) —ケミカルからバイオへの
流れの加速—

○榊原統子¹, 田村浩司², 松本和男³
(¹(一財)日本医薬情報センター, ²田辺三菱製薬(株), ³(株)ナールスコーポレ
ーション)

次年度年会長の挨拶 (18:15~18:20)

日本薬史学会 2023 年会長 土岐隆信

閉会の挨拶 (18:20~18:25)

東北大学大学院薬学研究科副研究科長 富岡佳久

発表に関するご案内

座長の先生方へ

- ・ご担当開始の15分前までに受付にお越してください。その後は係の者が誘導いたします。
- ・特別講演の発表時間は、質疑応答を含めて60分となっております。
- ・一般講演の発表時間は、質疑応答を含めて一演題あたり15分となっております。
- ・会場内(座長席より教壇側に向かって右前方)に設置されている時計を基準に進行をお願いいたします。
- ・発表時間につきましては、以下の要領で「ベル音」でお知らせします。
 - 予鈴 1 回: 発表時間終了2分前
 - 予鈴 2 回: 発表時間終了時
- なお特別講演では、ベル音によるお知らせはありませんので、適時進行をお願いします。
- ・演者の交代時間も含めて、ご担当セッションのマネジメントをお願いします。
- ・円滑な進行にご留意・ご協力をお願いします。

演者の先生方へ

- ・運営・進行のため、時間厳守をお願いいたします。講演にはノートパソコンと液晶プロジェクターを使用します。
- ・ご発表の15分前までに、受付にお越してください。
- ・一般講演の発表時間は、質疑応答を含めて一演題あたり15分となっております。講演時間と質疑応答時間の配分にご留意ください。例えば、講演時間12分、質疑応答3分の計15分、講演時間10分、質疑応答5分の計15分、等があります。
- ・発表時間につきましては、以下の要領でお知らせいたします。
 - 予鈴 1 回: 発表開始より13分経過
 - 予鈴 2 回: 発表開始より15分経過(講演時間の終了)
- なお、特別講演では、ベル音によるお知らせはありません。
- ・円滑な進行にご留意・ご協力をお願いします。

ポスターの掲示

- ・当日ポスターの掲示場所を指定します。用紙:A0(幅84.1cm×高さ118.9cm)を掲示可能なボードを準備する予定です。演題番号(P-1~P-4)の札があるボードをご利用ください。なお、ポスター発表される方は、受付時にお申し出ください。

日本薬史学会 2022 年会 プログラム集

発表日 2022 年 11 月 5 日

発行者 日本薬史学会 2022 年会 実行委員会

年会長 江戸 清人

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学大学院薬学研究科がん化学療法薬学分野(事務局)

Tel: 022-795-6851 Fax 03-795-6851

e-mail ytomioka@tohoku.ac.jp